

ご挨拶

清水 扇丈

2023年4月に数学教室に着任いたしましたことに伴いご挨拶申し上げます。京都大学には2015年に人間・環境学研究科に着任し8年間在職しまして、本年数学教室に異動してまいりました。

専門は偏微分方程式です。学生時代は松村陸豪先生のご指導のもと筑波大学で学びました。松村陸豪先生は京都大学理学部数学科・理学研究科数学専攻のご出身です。大学院の時にテーマとした弾性波伝播の2相境界問題を基礎として、現在はNavier-Stokes方程式で記述される流体の自由境界問題や関連する問題の解析に取り組んでおります。自由境界を固定境界に変換することで方程式が準線形方程式となりますが、線形化問題の最大正則性定理が威力を発揮し準線形方程式を解くことができます。尺度不変性を保つ関数空間で解を捉えるとともに境界の形状の解析を目指しております。

数学教室に着任してから微分積分学（講義・演義）Aの理学部のクラスを担当しています。これまで他学部のクラスを担当してきましたが、理学部の学生は講義や演義での着眼点が違い、的を射た質問に大いに刺激を受けております。

2021・2022年の2年間、微力ながら日本数学会理事長を務めました。日本では諸外国に比べて数学を重んじる姿勢が若干少ないことを危惧しておりましたが、近年は数学・数理科学の重要性が社会的にも認識されるようになってまいりました。文部科学省研究振興局より提案された「2030年に向けた数理科学の展開」

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/kagaku/2022/mext_01067.htmlでは数理科学への期待が5つの重要課題とともに謳われています。

ICM 2022は緊迫した国際情勢によってバーチャル開催となりました。ICMのサテライト会議を各国で実施することが推奨され、日本数学会とIMU分科会の主催でJapan Forum associated with ICM 2022を京都大学数理解析研究所で開催しました。数学教室からも4名の方にご講演いただきました。開催にあたり数理科学振興会からご寄付を頂いた御礼に、振興会代表者の広中平祐先生とお話する貴重な機会を得ました。広中先生の数学に対する進む情熱を肌で感じました。

広中先生をはじめ、素晴らしい数学者を数多く輩出している伝統ある京都大学数学教室の教授に就任させていただきましたことは身に余る光栄であり、自分に残された時間を数学の研究と教育に捧げ、数学教室に貢献できるよう精進してまいります所存です。ご指導ご鞭撻賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。